

令和4年度第3回育親中学校ブロック協議会 次第
(亀岡市学校規模適正化地域別推進協議会)

日時 令和4年8月18日(木)

午後7時00分～

場所 育親中学校 視聴覚室

次 第

1 開 会

2 育親中学校ブロックの新たな学校づくりについて
～ 令和6年4月の義務教育学校開校に向けて ～

3 閉 会

育親中学校ブロックの 新たな学校づくりについて

令和6年4月の義務教育学校開校に向けて

I 最終校名候補

- ◆「亀岡市立育親学園」を最終校名候補として選定
- ◆校名及び義務教育学校の設置は9月議会に提案し議決をもって決定する。

【公募概要】

- ①募集期間 令和4年6月25日～7月20日
- ②応募総数 224点
- ③選定基準
 - ・住民の理想や願いを大切にしたもの
 - ・住民がわかりやすく、親しみやすいもの
 - ・地域の特色を表したもの
 - ・新たな義務教育学校として開校していく想いを込めたもの

応募校名への児童生徒の想い

◆児童生徒の新たな学校への想い・期待・イメージは次のとおり。

- ・「育親」という名称に込められた想いを繋いでいきたい
- ・「4校が1つになる」ことへの期待感
- ・「みんなが一緒に学ぶ」ことへの高揚感（ワクワク感）
- ・「自然」に囲まれた学校
- ・「育親中学校」の場所にできる学校
- ・「みんなが仲良く、元気に、幸せに」過ごせる学校
- ・「青空」のように元気であってもらえる学校

応募校名候補から感じられたこと

◆児童生徒は「育親」で「4校が1つとなる」や「みんなで一緒に学ぶ」というイメージを抱いており、最初から「育親中の場所」に通学するイメージを思い描いているのではないか。

◆児童生徒の高揚感が高まり、

小学生が中学校に通学
(育親中校舎)

>

中学生が小学校に通学
(本梅小校舎と仮校舎)

ではないか。

◆「現育親中の位置」にできる「育親学園」で卒業すること「育親」に対する同じ想いを引き継いでいきたい。

Ⅱ 新たな義務教育学校の開校案 (結論)

- ◆施設一体型義務教育学校
- ◆令和6年4月開校、新校舎完成後に移動して学習を継続し発展させること
- ◆令和6年4月から新校舎完成までの間は現育親中校舎を使用する
- ◆児童生徒にとってより良い教育環境の継続性を重視
- ◆義務教育学校のメリットは最大限に活かすこと

デメリットの対策

- ①新校舎工事に係る児童生徒の安全確保（敷地内工事、工事車両など）
- ②義務教育学校化へ向けた育親中改修時の学習面への影響
- ③新校舎工事に係る騒音などの学習面への影響
- ④通学する際に使用する駐輪場側の階段の安全性の対策

メリット

- ①敷地面積が広く学習環境への影響が少なく、後期課程にとっても変化が小さい。
- ②児童生徒のイメージに沿った義務教育学校の開校を迎えることができる。
- ③新校舎工事を間近で見ながら学校生活を送ることで「育親学園」への愛着、期待感が強まり貴重な学習機会にもなる。
- ④通学方法の変更が1回のみとなり児童生徒及び保護者の負担軽減となる。

令和6年度・7年度において義務教育学校で児童生徒が学ぶ校舎案

- ①現育親中校舎を利用し令和6年4月に義務教育学校を開校する。
- ②新校舎は現育親中グラウンドに建設する。
- ③新校舎が完成次第、新校舎へ移動し学習を継続・発展させる。
- ④新校舎へ移動後に現育親中校舎を除却しグラウンド等を整備する。

施設整備スケジュール案

